

学校名	小城市立三日月中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標と重点目標を念頭に置いた教育活動が展開できたと考える。日頃の授業改善だけでなく、タブレット端末を活用した学びの多様性に念頭を置いた実践の成果と考える。また、生徒指導と教育相談およびカウンセラー等が連携することで、学校全体で生徒が相談しやすい環境づくりができたと考える。しかし、30日以上欠席をしている生徒は増加傾向にあり、今後の大きな課題である。
2 学校教育目標	夢に向かい主体的に学び、行動できる生徒の育成 ～夢・自信・チャレンジ三中～
3 本年度の重点目標	・特別支援教育を視点に置いた個別最適な学びと協働的な学びについて研究と実践を行う。この校内研究と研修を通して、特性のもつ生徒について全職員で共通理解した実践ができるようにしたい。

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 「かけはしノート」の活用を通して、家庭学習時間の確保・質の向上を目指す。	○「かけはしノート」は、家庭での授業内容の復習やその理解に役立っていると回答する生徒が80%を上回る。	・子どもの実態に応じた「かけはしシート」の活用の工夫改善を通して、授業と家庭学習のつながりを深める工夫に取り組む。	・学力向上コーディネーター
	○主体的・対話的で深い学びを促す活動を中心とした授業づくりの実践	○先生は、分かりやすい授業になっているようにいろいろ工夫していると回答する生徒が80%を上回る。	・授業で「めあて」「まとめ」「ふり返り」の時間を確保する。その上で生徒の実態を念頭に置きながら、主体的・対話的に学習に取り組む授業展開を図る。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の時間は、自己の成長に役立つと思う生徒の割合を80%以上とする。	・学年職員全員で道徳の授業を行い、道徳教育の充実に取り組む。 ・生徒の「出番」「役割」「承認」を大切にしたい実行委員会形式による学校行事の実践や生徒会活動の充実を図る。	・道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が80%を上回る。	・毎月いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する研修会(講演会)を1回以上行う。 ・個に応じた支援を充実させるため、特別支援に関する講習、講話を通して、知識を高め、実践する。	・生徒指導主事 ・教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒80%以上	・日頃の教育活動全般を通じて、生徒の自己肯定感を高めるような声かけを行うと共に、学級活動で互いを認める取組を行う。 ・生徒の自己の成長や将来の夢につなげるため、輪番で教職員が「心の講話」を行う。	・生徒指導主事
	○無言清掃の取り組みにより、心の成長につなげる。	○無言清掃に取り組むことで、心の成長につながっていると回答する生徒が80%を上回る。	・無言清掃への意義を高めるために生徒集会や職員研修で伝えらると共に、学年を縦割りにした合同清掃会を行う。	・清掃担当
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①生徒指導部で毎月出される成長目標の達成が80%以上 ②「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生活部とタイアップして生活習慣のアンケートや自己の評価をし、PDCAサイクルができるようになる。 ・食育の大切さについて考える授業や学活に取り組む。 ・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に取り組む。	・保健体育担当 ・食育担当 ・生徒指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○業務効率化と時間外勤務の削減に努めている割合を80%以上にする。	・部活動時間、休養日の徹底。 ・学校行事の内容再検討および行事、会議等の内容精選。 ・年休取得推進の呼びかけ(特に長時間勤務者へは声かけをしていく)。	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実(個別最適な学びと協働的な学びについての研究と実践)	○生徒の支援につなげた教職員の割合を80%以上にする。 ○特性をもつ生徒について全職員で共通理解した実践を行う。 ○個々の生徒の進路実現を目指す。	・職員研修(年5回) ・ユニバーサルデザインに基づいた教室環境整備 ・「かけはしノート」の効果的な活用	・特別支援教育コーディネーター

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○校内研における学力向上の取組	○個別最適な学びと協働的な学びの充実 ～特別支援教育の基本的な考え方をふまえて～	○特別支援教育の基本的な考え方の知識が広がった、深まったと回答する教員が80%を上回る。	・特別支援に関する講習会を年に4回実施 ・講習会を受けて授業実践を行い、成果と課題を確認する。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--